



ルルド祭 5月10日

島のひかり ホームページアドレス
<http://lifeaidgoto.jp.cx/simanohikari/>



発行

カトリック浦頭教会
 広報委員会
 五島市平蔵町2716
 TEL 0959③0072
 印刷・(株)才津印刷所

ありのまま、そのまま

主任司祭 岩崎 晋吾

長崎教区には有名なコスプレ司祭がいる。ミサの説教や黙想会のお話に変装して登場する。有名人、ヒーローもの、動物、

女装など、何でもこなす豊富な変身ぶりである。年配の方には「神聖な場で冗談じゃない」と受け入れがたい方もおられるようだが本人も決して冗談ではない。至って本気である。単なるパフォーマンスではなく、ちゃんと意味も目的もある。そしてちゃんと感動したりもする。

昨年ある女子修道会の黙想会でもコスプレをやったと聞いた。「ありのままの〜♪」と当時ヒットした映画の主題歌に乗って登場した姿は「蟻」だった。そう、「蟻のままの」姿で登場したのである。その後の話の展開は聞いていない。きつとシスター方を感動の渦に巻き込んだに違いない。これまでの司祭という殻を破ったそれこそ自分のありのままそのまますべて生きている

司祭だと思っている。

さて、話しは全く変わるが、先日明治の日本産業遺産が世界遺産として登録された。長崎にもその資産がいくつかあるが登録はスムーズにいかなかった。韓国側からいくつかの資産に対しクレームがついた。産業遺産において強制労働があったという歴史問題である。日本側からすれば登録直前の盛り上がりがあるところに水を差された感じで気持ち良くないということだったかもしれない。私はもし強制労働の事実があったとしても産業遺産に関しては世界遺産になってほしいと願っていた。日本の産業発達、経済発展には光と影の部分があるものだと思う。それは国内に目を向けてもそうで、経済成長の為に企業戦士達の姿、犠牲になっていく家庭の問題もあった。ありのままそのままの産業遺産を知りたい。原爆ドーム、アウシュビッツ収容所も世界遺産である。人は負の歴史から未来への歩むべき真の道を学ぶことができる。

岩崎神父様誕生会

どこ吹く雨風の中 教会の“傘”の下で

七月十二日、五島は台風の余波もあり、強風、大雨に包まれてしまった。午前中に予定されていた草刈り作業は延期。ただ神父様が産声をあげた記念日からあまり離れてしまうと、新鮮味を欠く事もあり、(大)雨天決行。

最初、本村委員長により、神父様の健康を気づかう言葉があり、その後、神父様より「教会の外で社会福祉に貢献する事も開かれた教会においては大切な事だと思えます。」という話があった。

夕暮れと共に闇が近づき、揺れる木々が作り出す擦れ合う葉音に囲まれた神羊館の中は、神父様を中心に歓談の輪が幾重にも広がり、いつしか雨風の激しい音にも負けないうれし楽しい夜の夜になっていった。



堂崎“夏化粧へ”

草刈り隊出撃

七月十九日、前週の台風の余波を受け、延期になった壮年部、女性会主催の草刈り作業が万を待って決行。北の風に恵まれて、梅雨の最中にしては、やや涼しさの中での共同作業となった。

海岸線の近くには、はまゆうを始め貴重植物が、雑草にまぎれて生え渡っている為、ましがって切ってしまわないように、草払い機と一心同体になりなが

ら扇形に下草を刈っていく。

一時間程たつと、ジュースをもらいながらの休憩タイム。ひとごちついた事もあって、更なる“goサイン”が出にくい感じが“ちょこつと”出たが、それは草刈り精鋭隊。一人目の“ウー”という機械音と共に、一斉出撃。ゴーという音を、海に向かって放ちながら、緑の絨毯が徐々に、堂崎の先端の小山の裾に向かって突き進んでいく。ラストスパートの内なる気合いと共に、作業は昼飯時までかかって有終の美へ向かっていった。



追伸：半泊部隊は地元地区の暖かい気遣いにより上等のデザートをももらって、なかなかの“気持ちよか”作業になった模様。

福祉委員会 音訳部

吉川 春子

昨年、音訳ボランティア募集「声に自信のある方も、ない方も挑戦してみませんか」

岩崎神父様の呼びかけに、軽い気持ちで、講座を受けてみることにしました。

音訳は、視覚困難な方へ、希望する本や雑誌などを音声に録音して提供します。

講座は、発声、滑舌、パソコン操作などなど、大丈夫かな不安な気持ちのまま、終了しました。

今年は、各小教区で、活動開始する事になりました。

浦頭の部員は、30代から60代まで、7名です。

早速、やってみようと、一番身近な「島のひかり」を音訳する事にしました。

習うと実行するのは、全然ちがいが、あたふたすることばかりでした。

まだまだ未熟ですが、気持ち

だけは、もつと良い物にしたい
と思つています。

教会の後に、専用コーナーが
出来ました。

CD・カセットテープの2種
類があります。

◎金曜日の御ミサ・説教

◎五島キリシタン誌

◎ペトロ岐部と一八七殉教者
などもあります。

どうぞ、ご利用下さい。

また、何か、音訳希望があれ
ば、気軽に声をかけて頂きたい
と思います。

お待ちしております。

〈福祉委員会より〉

五島のキリシタン史とペトロ
岐部と一八七殉教者の音訳が出
来ています。ご利用下さい。

今回、金曜日のミサのテープ
録音をして居ます。ミサの雰
囲気に与る事が出来るのではと思
います。ご利用下さい。

おたより

主の平和 いつも「島のひか
り」お送り頂きありがとうございます。
主の神父様をはじめ、
浦頭教会の信徒の皆様の深い信
仰、祈りに支えられていること
を心から感謝申し上げます。

藤沢市 聖心の布教姉妹会

シスター 大川ヨシノ

主の御復活のよろこびのうち
に活気に満ちた教会報をお届け
くださいまして、ありがとうございます。
ございました。心より感謝申し上
げます。さて私共の修道院のSr
ドメニカ岩本久美は、すでに天
国に行きましたのでお知らせい
たします。

別府市 サレジアンシスターズ

院長 シスター 金子

島のひかりで故郷の記事を目に
する度、懐かしさがこみ上げて
きます。

大阪 山本 利徳

秘

跡

《洗礼》

○カタリナ 鍋内 智夢

○ペトロ 鍋内 雄樹

○フランシスコ 鍋内 優聖

○ヨハネ五島 鍋内 光留

○ヨハネ五島 鍋内 光留

《帰天》

○ミカエル 中村 正雄 (七十歳)

○マリア 宮崎富美代 (七七歳)

○ヨゼフィナマリア 木口 タケ (九三歳)

○テレジア 江川 マヌ (八五歳)

○ヨゼフィナマリア 木口 タケ (九三歳)

○テレジア 江川 マヌ (八五歳)

○ヨゼフィナマリア 木口 タケ (九三歳)

○テレジア 江川 マヌ (八五歳)

○ヨハネ 谷口 實 (八三歳)

○エリザベット 山口ミツエ (八七歳)

○セシリア 江口 タネ (九六歳)

○ヨハネ 谷口 實 (八三歳)

○エリザベット 山口ミツエ (八七歳)

○セシリア 江口 タネ (九六歳)

○ヨハネ 谷口 實 (八三歳)

ありがとう

暑い中、仕事など各方面でこ
活躍の皆様、後苦労様です。

今回も御芳志等で「島のひか
り」への御協力ありがとうございます。

大阪 山本 利徳 様

浦頭 奥浦修道院 様

大阪 古閑 レイコ 様

茨城県 濱崎 繁喜 様

神奈川 聖心の布教姉妹会

sr 大川 ヨシノ 様

sr 大川 ヨシノ 様

ルルド祭に参加して

木口 誠也

「今日は熱くなりそうやね」
開始前のグラウンド横で一言つぶやきながら、今年の井持浦ルルド祭が始まりました。

少し暑いながらも天候にも恵まれ、マリア様の像を先頭に行列がスタート。厳かなロザリオの祈りが一面にこだまし、教会横のルルドへ向けそれぞれの教区の方々が進む様は、マリア様も喜ばれるような見事なものでした。

長い行列も終わり、屋外ミサが福江教会の中村満神父様を中心に始まりました。

私も浦頭教会聖歌隊としてミサに参加していましたが、最初にあわれみの賛歌、栄光の賛歌がなぜか飛ばされ、オルガン担当のシスターと顔を見合わせ苦笑いするというアクシデントに見舞われてしまいました。これは大丈夫か？という不安は、濱崎毅さんの素晴らしい答唱詩

編で払拭されました。流石の歌声、来年も決まりですね！

その後のミサは、中村神父様の暖かい説教を始め終始なごやかな雰囲気が進み、無事に今年のルルド祭も幕を閉じる事が出来ました。教会を後にする信徒の方々は皆笑顔で、神様の祝福に満たされた素晴らしいルルド祭であったと実感する事が出来ました。

このルルド祭に先立って準備された信徒の方々、下五島地区役員の皆様と当日役割担当された方々、そして、参加された信徒の皆様へ感謝し、来年のルルド祭もまた恵まれたものになるよう祈っていききたいと思えます。



HOME

(ホーム)

—愛しの座敷わらし—

六月は、家庭について考える月間であり、教会では、六月二十八日、二番ミサ後に神羊館に於いて映画会を行った。会場には、今までにない多くの人が参加しホールは一杯になった。



主演は刑事ドラマでおなじみの水谷豊さん。祖母、父（主役）、母、中学生の娘、小学生の息子が、東京から父の転勤によって盛岡に引越して来る時から始まります。一戸建ての大きな家と

聞かされていた家族は、度肝を抜かされた。茅葺の大きな家、トイレは昔のポットン、風呂は薪で沸かし、家の中央には囲炉裏があった。特に嫌がったのは娘で、ある日、手鏡の中に小さな子供の顔が映った。その驚きは異常なほどであった。母も見つた。息子は外のホコラで見たが一緒に遊んだ。数日が経って地域の人から座敷童と聞かされる。生活が限界に達した時、囲炉裏を囲みながら、「この火は体を暖めてくれる、心も温めてくれる。」その後は和やかな生活をしていたが、父の仕事が東京の本社に戻ることに成り、心の中に座敷童も連れて帰っていく。この座敷童がこの家族を強い絆で結んでくれたのでしよう。



ほんわか家族デー

5/5

5/10

6/21

うちの岩崎神父様は気くばりお父さん!!子供の日には、お菓子を、母の日はカーネーションそして父の日は元氣印のドリンクをみんなに。そんなやさしい人だからお母さんたちから愛情ドリンクを10倍?。これからもソフトなジョークでニッコリさせて下さい。お体を大切に……

お父さん方へ

いつも、わたしたちのために、いろんな行事に、さんかしていただき、ありがとうございます。お体を、大切にして、一日をすごして下さい。わたしたちを、見守ってくれて、ありがとうございます。ございます。他にも、感しゃしていただくことは、何ともあります。わたしたちは、しあわせです。これからも、お仕事をがんばって下さい。

3年 小田 凜花

お母さんへ

毎日、毎日、家のお仕事、ありがとう。また、私達を生んでくれてありがとう。私達も、大人になったら、たくさん子どもを生んで、お母さんをしあわせにするね。本当にありがとう。

3年 鍋内 楓蓮



おとうさんへ

いつも、ごはんやせんたくをしてくれてありがとう。いつもしごとをしてくれるから、生かつがたのしくなるんだよ。赤ちゃんのときから見まもつてくれて、本当にありがとう。

2年 鍋内 孝志

お母さんへ

お母さんいつもお仕事おつかれ様です。それと、いつもおこらせてばかりでごめんね。他にも色々めいわくかけてるけどこれからもよろしくね。これからどんな年とっていくけど、光玖にとっては、わかいお母さんだと思ってるよ。お母さんは、すぐくがんばるから、がんばりすぎて、病気にならないでね。

6年 みくより

生まれてきてくれてありがとう。私の子どもでいてくれてありがとう。あなたが私の子どもで本当に良かった。もし叶うなら私が生まれ変わっても、私の子どもであってほしい。どんなにわんぱくでも、どんなに病弱でも、私はあなたの親でありたい。それは親の共通の想いです。どうか、この子ども達にお恵みがありますように。どうか、立派なカトリック信者でありますように、お祈り致します。

父親代表 センチメンタルおやじ

お父さんへ

父の日おめでとう。毎日、大変な仕事、ありがとう。仕事をしてくれるおかげで毎日が、しあわせです。そして、父になってくれて、ありがとう。あなたがいたからこのような事ができます。本当にありがとう。

4年 鍋内玖伶彩

現代の子供を思う

今の子どもは、小さい時から家の手伝いは余りなくて、大学までを目指してただ勉強が出来れば良い。片寄った性格の人間になりつつあります。そして学校の先生も子どもに強く言えない傾向にあるのは実感。

ある人がこんな事を言いました。「近頃の子どもはと言う前に近頃の親が問題だ」でも奥浦地区の子ども達は大丈夫です。これからも子ども達の成長を手助けしながら大人も成長していきましょう。

竹山 要司

『時の人』

富上成美さん

ボリビアでボランティア活動をなさっている彼女の私記を紹介いたします。私たちの心にポツと何か芽ばえることを期待して
 ・
 ・
 ・

ボリビアの障害者支援
施設で3年を過ごして

ボランティア
 富上 成美

私は二〇一一年よりボリビア・コチャバンバにある野原昭子さんがはじめられた障害者支援施設CAPEDIS（カペディス）でボランティアをしている者です。二〇〇五年に一年間お世話になり、今回二度目です。野原さんとの出会いのきっかけは知り合いのシスターから送られてきたカトリック新聞を通してすすめられたものでした。すぐにボリビアに電話。私「ボ

ランティアに行きたいのですが」、野原さん「いいですよ(即答)！」。このような簡単なやりとりで、私の人生はいともあっさりとは方向が変わったのです。スペイン語もできず、障害者支援施設で働いているとはいえ、プロ意識を持っていたわけ



ではない私の新たな人生の始まり。

スペイン語ができない私が、今振り返ればたくさん困難を抱えていたなあ、と思いきされます。もともと真面目でこだわり深い性格、それまでに培われた個人主義の影響を受けた部

分、違う文化にはいつてこそわかる「日本人である私」など、初めは混乱ばかりだったように思います。「なぜそんなことをするの?」「なぜこれをしていないの?」次から次に出てくる疑問を抱えて、アップアップして、自己嫌悪になり、行き詰りそうになりました。

一方、ボリビアで関わる人たちの優しさ、明るさ、放っておかなさ、国の歴史、カトリック国の底力、国や文化を超えた共通点などに触れて、魂が喜び感覚を味わい、玉ねぎの皮が一枚ずつ丁寧にもかれていくみたい、固定観念や小さな疑問やわだかまりが解消されて、真の自由みたいなものが注がれていったのです。

私にとって「真の自由」の意味は性格の違い、育った環境の違い、環境の違いによってひかれた境界線がなくなることです。言ってみれば国も違うし、文化が違うし、個々の歴史も違うし、出会った時点での苦しみも違う

わけですが、同じ食卓で言葉が通じなくても穏やかに同じ時を過ごし、何の条件も課されずに「そこに居ていい」、「一緒にいてくれることがうれしい」、そんな時を何度も繰り返し経験したのです。それは私にとってまさに聖書でいう「平和の国」の実現でした。私の中に生まれる多くの疑問のひとつ「平和とは何ぞや」はこんな日常的な場面(食事)を味わい、感じるうちに解消されたのです。争うのは嫌いだけれど、平和を望んでいくわけではなかった私に「平和」の価値や喜びを具体的に教えてくれたのです。このことが解ったときは本当に魂が喜び躍り上がる感じでした。現実には苛立ちながら無言で食べる日が舞い戻ったり、不平、不満に囚われたりして、愚かなことだと思いつながら繰り返すし、自分でコントロールできないことが多いのですが、私の身体的・精神的・魂的境界なのでしよう。自分の限界を感じることが多ければ

多いほど、比例して大きくなるのが神の存在感でした。

今年七月に一時帰国をしたとき、ある人が教えてくれたのです。「心の貧しい人」というのは「神様しか頼る先がない人」という意味だと。今の私は真にそれだけなのです。そして私は「幸いな人」なのだなぁと理屈で考え、このすごい安心感を味わっているのです。

お祈りで、想いで、具体的な支援で、言葉かけで、笑顔で支えてくれるすべての人に、感謝。

〈スペイン語の挨拶〉

- オーラ (おはよう・こんにちは) は・こんばんはの全てを兼ねる万能の挨拶)
- ブエノスディアス (おはようございます)
- グラシアス (ありがとう)
- アディオス (さようなら)
- チャオ(またね!!さようなら)



編集員で 頑張るぞ

木口 誠也

私がまだ幼い頃、母が「今日のは島のひかりやけん遅くなるよ。」と言って出かける様子は何となく憶えています。それから三十年程月日が過ぎたでしょうか。



木口重憲さんから声がかかるまで、まさか島のひかりの編集等に携わる事になるとは夢にも思ってませんでした。

改めて今、当時の頃からの島のひかりを読み返してみると、浦頭教会の歴史を始め、教会に関わる信徒の方々の事、大きなイベントから個人の出来事まで、まさに浦頭教会を中心とした地域にしっかりと根ざした出版物

である事がわかりました。

最初の仕事は発送の日、浦頭教区だけではなく、それこそ日本中、海外にまで発送されていく島のひかりを見て、ただただ驚くばかりでした。

発行から二百号を数える歴史あるこの島のひかりの仕事、今の自分には荷が重すぎる仕事ですが、諸先輩方の指導のもと、一杯頑張つてまいりますので、これからよろしくお願い致します。

カーブミラー設置

浦頭教会は隣接する駐車場整備が進み、以前よりミサや観光での車両の乗り入れが増えました。特にミサ時には高齢者や送迎者車両が増えたように思います。

ただ、司祭館下の参道がカーブしており、対向車や歩行者が見えにくく度々ヒヤットする事があるとの事でカーブミラーを設置するようになりました。

ふるさとだより

“幽玄の宵” 光達の乱舞に酔う



月の光が明るく小川におちている。前日の激しい雨も止み、まち作り協議会主催の第四回螢鑑賞会が春の終わりを告げる“さつき”最後の日に行なわれた。第三回目までは浦頭の大蔵川で行なわれていたが、今年は、幾つかの諸条件が重なった事もあり、初めて奥浦小学校前の前田川で行なわれた。

前田川は、筆者が小学生当時四十数年前は、大雨が降れば暴れまわり水害を起こす悪大将だったが、おとなしい時は子供達が魚達と戯れ、夏休みには飛沫を高く上げながら、飛び込む少年達を快く受け入れていた。

「わー。きれいな。」

「おーい、こっちにいったらとんでるぞ。」

昔遊びに興じ、ソーメンで腹ごしらえした子供達は、螢達の光の鮮やかな点滅に酔いしれた。

吹け!! 奥浦の風

去る五月二十四日、五島市中総体バレーボールが福江中学校体育館にて行われた。男子は、押しつ押しされつの熱戦を繰り広げたが、セットカウント0対2で翁頭中に敗れてしまった。女子は、対富江中、岐宿中にストリートで勝ち進み、準決勝で三井楽中と対戦。勝利を匂わず試合展開だったが、0対2で惜しくも決勝進出を逃してしまった。翌月、七日には中総体陸上が行われ、五種目で入賞を果たし、共通走高跳では、三年平山成美さんが三位となり、県大会出場を手にした。



奥浦慈恵院

夏祭り

学校も十八日より夏休みに入り、十九日、午後五時半より恒例の夏祭りが行われた。

この日は朝から小雨模様で、心配したが、夕方には晴上がり絶好の祭りモード。会場には大勢の人が詰めかけ、浴衣姿の売子（慈恵院の子ども）が、食べ物飲み物を元気よく売っていた。七時頃になると、お待ちかねの抽選会。沢山の豪華賞品を手に大きな歓声が響き渡った。



漫画

“盤上のポラリス”

発行

大手出版社・講談社より、五月二十四日掲載で、浦頭出身の木口糧（木口利光家）さん原作の単行本が全国に向けて発刊されました。

内容は、競技人口七億人と言われるチェス。その頂点を目ざす少年少女を熱く描く物語り。主人公は、原作者も旅立った長崎県の離島という設定。漫画の主人公・椿一兵に大きな夢を託し、原作者もアニメの世界の海を漕いで行く。



編集後記

何を書けばいいか迷っている中、神羊館での映画鑑賞会を見て、18年前に五島に帰って来た時の事を思い出しました。

自分の家族はどう思っていたんだろう。私は、長崎と五島の仕事の違いと、材料の使い方の違いにとまどいました。

子供は、妻は、どうだったんだろう。学校までの遠くて狭い道、車がないと生活できない環境になれるのに時間がかかったんではないかと思いついてました。島のひかりに家族を紹介してもらって、浦頭小教区の仲間になったと思えました。

いつの間にか、広報委員会の一員となっています。いろんな出来事を細かくのせていきたいです。4月から各役員も多く替わり、活動を始めています。この季節草刈りが大変ですが、草刈りの後のすがすがしさは、格別です。「草に負けるな。」

小田 洋市